

自粛期間中の取り組みについて

新型コロナウイルスの流行に伴い全国的な活動自粛、そして学校の一斉休校が行われている間、指導者の皆さんはどのように部員と接していたのでしょうか。自らもプレーヤーとして活動している会員の皆さんは、どのように対処していたのか。今後も自粛をしなければならない状況が出来しないとも限りません。そのような時、ただ手をこまねいて状況改善を待っているだけでは、生徒に対してもプレーヤーとしても良い影響はありません。そこで何かの参考になればと思い、皆さんの活動を教えてもらいました。数例をご紹介します。(敬称略)

例1：休校中のバドミントン部での取り組み事例

石川県教職員バドミントン連盟

石川県立工業高等学校 政谷和俊

公立高等学校

部員数 10 名（3 年 3 名、2 年 7 名）

競技レベル 県ベスト 4 程度

○取り組み内容

- ・LINE でグループを作成しトレーニングメニューを指示した。

3 月 4 月の段階では顧問より 1 時間程度のメニューを指示した。生徒はメニューに対してのコメントをノートに記入し、撮影したものを LINE で顧問に送信し、顧問はそれに対して各個人に返信した。返信内容はトレーニングに関するだけでなく、学習課題の進捗状況や体調面なども聞くような形にした。通常練習がオフとなる火曜日以外は毎日継続しておこなった。

5 月になり学校内で Google Classroom の環境が整ったためオンラインミーティングをおこなった。その際、メニュー作成の当番割を作成し、当番が LINE グループに、毎朝 8 時まででその日のメニューを投稿するという形にした。生徒は自分で調べたトレーニングや Youtube にあるトレーニング動画やバドミントン動画を載せたり、考え工夫を凝らしたメニューを投稿していた。

○休校明けの生徒の変化

- ・継続して自主トレーニングを実施する生徒が増えた。
- ・メニューの意図を自ら考え、より効果的に練習を実施できるようになったと感じた。
- ・体力面では低下していたが、段階的に目標を設定することで生徒のモチベーションを維持させた。
- ・動画を見るなど自らプレーの研究をする生徒が増えたと感じた。

例2：緊急事態宣言中の活動について

東京都教職員バドミントン連盟

東京都立日比谷高等学校 武内 彰

【結論】バドミントン部顧問として部員に対する特別な活動はしていない。

プレーヤーとしても特別なことはしていない。

1 部員とのつながり

(1) オンライン授業でのつながり

- ・本校では、オンラインによるライブ授業を実施しており、私自身も2年生全クラスを担当していたので、そこでバドミントン部員の参加状況や様子などを把握していた。後日、部員から聞いた話であるが、「先生は各クラスでバドミントン部員をよくあてる」との感想が共有されていたようである。確かに、顔と名前的一致している部員を指名して発言させることが多かったと自覚している。

(2) 校内ではオンライン・ミーティングを実施した部活動もあったが、バドミントン部については特に実施をしなかった。

(3) 部長への電話連絡

- ・部長には何度か電話連絡して、様子などを聴いたり、励ましたりした。

2 自身の体調管理など（定期的ではなく稀に実施）

(1) 自宅室内でマグカップチャレンジ

(2) 自宅の庭で素振りやフットワーク、家族とドライブ練習

(3) 自宅ベッドで腹筋トレーニング

3 SNSの視聴や投稿

(1) インスタグラムでトッププレイヤーの試合の映像を視聴して、モチベーションを保った。

(2) フェイスブックにマグカップチャレンジの成功映像を投稿した。かなりの「いいね」反応があった。

例3：臨時休業中・外出自粛中の取り組み

山形県教職員バドミントン連盟

山形県立新庄南高等学校 本間真澄

【部員に対しての指導】

- 自宅でできるトレーニングメニューを与え、少しでも体力が落ちないようにしていた。
- 練習方法やトレーニングの動画をメールで送信し、自主練習の参考とした。

【自分自身のトレーニング】

- 自宅前（屋外）で子どもと羽打ちをした。（遊び感覚）
- 屋外でランニングをしたり、室内ではトレーニングアプリを使用したりして体を動かした。

例4：自粛期間中の練習等について

神奈川県教職員バドミントン連盟

神奈川県立湘南台高等学校 水野勝美

授業で使っていた Google の Chrome の「classroom」に部員を登録して、家でできる練習内容を発信しました。また YouTube の動画の中で参考にさせたいプレーヤー選手のものを配信していました。また自分で動画を作成して、注意すべき細かな点等を配信しました。